

本年度の重点目標	重点目標	具体的方策	留意事項	評価結果と課題
総務部	①仕事の効率化と負担軽減 ②PTAとの連携強化 ③防災体制の充実	①業務が個人に集中しないように複数で担当する。 ②PTA総会の出席率を前年より10%増やす。 ③大規模災害（地震・水害）が発生した際の具体的な対策を検討する。	①現行のマニュアルをさらに精選し、初めて担当する業務でも滞りなく行えるようにする。 ②PTA関連の書類発送について、少なくとも2週間前には完了させる。 ③生徒が登校している状態での安全確保の方法や手順などを検討する。	①一部の業務については複数で行うことができた。 ②PTA関連の書類は問題なく発送できた。出席率は昨年より開始時刻を遅らせることにより約5%増加した。出席率の低い学年があったので改善していきたい。 ③防災避難訓練で初めて授業教室から避難させることができた。来年度は外部の専門家の講演を予定しており、更にいろいろな角度から充実に努めたい。
教務部	①生徒の確かな学力向上に向けての改善 (1)授業改善 (2)定期考査の改善 (3)新教育課程 ②見える化による仕事のスリム化	①(1)生徒の授業に対する満足度が7割以上になるよう授業改善を目指す（教科でアンケートを実施）。 (2)定期考査実施方法の弾力的な取り組みを促し、「思考問題」の積極的な導入を行う。ルーブリック等での評価を行い、生徒の評価がS,A(S,A,B,C4評価中)となることを目標とする。 (3)本校生徒の実態に合った新教育課程の作成を行う。 ②資料の枚数を極力減らし、教科担任・担任の業務がイメージしやすい資料作成に努める。伝達事項のみの教科主任会を昨年度の1/2にする。	①(1)主体的・対話的で深い学びの視点を持った授業の取り組みを実施し、授業改善を図る。 (2)授業の工夫改善と連動して定期考査の出題内容の改善を図る。思考力・判断力・表現力の育成に努める。 (3)現教育課程の各教科の問題点を明らかにし、改善策を考え、対応策を挙げる。また、他校の現状などを把握し、情報を全職員と共有する。 ②教科担任・担任ともに仕事内容の不透明な部分を無くし、仕事に対するストレス軽減につなげる。教科主任者会では、議題を事前にまとめて準備をし、新教育過程の議論に時間を費やることができるようにする。	①全教科で主体的・対話的で深い学びの視点を持った授業改善に取り組んでいただいた。今年度は英語、理科に公開授業時のアンケートでは英語90%、理科80%の授業満足度であり、授業改善の工夫を進めることができています。継続して学校全体で授業改善に取り組んでいきたい。 ②定期考査では、考査時間の延長を行い、思考・判断・表現力を問う問題やパフォーマンス課題を考査に取り入れる取組を積極的に行った。英語では自由英作文を生徒に事前に評価基準（ルーブリック）を示し、満足できる内容で書くことができ、S,A評価の生徒が6割を占めた。継続した取り組みにより生徒に力をつけさせていきたいと考えている。 ③新教育課程の編成をカリキュラムマネジメントに基づいた取り組みを行うことを目指し、育てたい生徒像を全職員との情報交換をし、各教科にどのような科目編成をしていくかを多くの議論をしている状況である。 ④教務関係の書類を見直し、現状に即した様式に変更した。また、複数にわたっていた資料を一つにまとめ、教員・生徒が動く上でわかりやすくなるよう努めた。
生徒指導部	①基本的な生活習慣の確立（遅刻防止） ②交通安全意識・登校マナーの向上 ③身だしなみ指導の徹底	①8時35分に教室へ入室、5分前登校の指導を継続、徹底させる。 ②交通安全指導への生徒参加、地域へのアピールしながらPTA合同指導時に保護者のたすき利用、自転車登録・点検時に交通安全指導を徹底させる。自転車通学路及び自転車の交通ルール・マナー（ながらスマホ等）の徹底を守らせる。 ③身だしなみ指導、事後指導、登校指導、交通安全指導時の校門指導を継続して実施する。年度当初に「生徒指導に関する確認事項」を全職員に配付し、指導内容・方法の確認する。	①評価基準（遅刻指数）を設定し、目標に到達できるよう全教員の意識を高める。昨年度の遅刻指数は0.37であった。今年度の目標は、0.30に設定する。 ②自転車通学者の安全への意識づけができたか。また、登校マナーの向上を図ることができ地域の人へ配慮できたか。昨年度の事故件数（11件）を減少できるように教員・生徒ともに意識を高める。 ③昨年度より、事後指導等を見直し、身だしなみを自主的自発的に整えるような指導を全教員の理解のもとで行っていく。	①今年度の遅刻指数は、0.29であった。目標としていた0.30を若干ではあるが下回り目標達成はできた。ただし、5分前登校に関しては、来年度はより一層、各担任によって周知徹底させる必要がある。 ②昨年多かった自転車のマナーによる外部からの問い合わせ件数は激減した（今年度は3件）。ただし、事故件数は16件と昨年より5件増加してしまっ。対応ここので生徒に安全な事故も多くあったが来年度は、事故後の防犯も含め、生徒に周知徹底させていきたい。 ③身だしなみ指導について事後指導を受ける生徒は0名であり、指導の成果が着実に見えている。また、各教員の指導により、日常の学校生活における身だしなみ指導を行なった生徒は、22名（昨年度27名、一昨年度69名）と減少している。
進路指導部	適切な職業観に基づく生徒による主体的な進路決定	①L.T、総合の学習時間に行う進路指導の充実を図る。 ②インターンシップ事業、キャリア教育の充実を図る。 ③就職希望者への指導の充実を図る。 ④外部試験を有効活用する。 ⑤高大接続改革への対応を進める。 ⑥生徒の進路選択に関する満足度を測るアンケートを第3学年の生徒に実施し、7割以上が満足感を得ることを目標とする。	①HR担任との連携が上手くいくよう配慮する。 ②キャリア教育の一環として普通科2年生を対象にインターンシップを実施する。 ③就職を希望する生徒たちに情報を提供し、適切な指導ができるよう努める。 ④事前・事後指導の充実を努め、外部試験の結果を進路指導に反映させていく。 ⑤前年に続き大学模擬講義を3年対象の進路講演会の中に位置付けて実施する。 ⑥HR担任との連携・情報交換を通して、生徒個人の特徴、資質などを的確につかみながら、生徒が主体となって進路選択を行なうよう留意する。	①学年会、担任会を通して進路部とHR担任との連携を今以上に滑らかにしていきたい。 ②今年度から歯科医師会からの依頼を受けインターンシップ先に加えたところ、丁寧に指導していただいた。進路選択の参考になった。他の業種においても、参加した生徒にとって大変良い経験となった。 ③過年度の受験報告書や、適性検査の練習、多くの先生方による面接指導等が大いに役立ち、全員希望の就職先から内定をもらうことができた。 ④共通テストの様相が変わり振り回された1年だった。しかし外部試験の活用は大事なファクターの一つであるので、今後も有効活用できるように研究していきたい。 ⑤大学模擬講義を受講し、興味のある分野について理解を深めさせることができた。さらに、大学を身近に感じ自らの進路実現に向けてよい刺激を与えることができた。 ⑥アンケート未実施（1月24日現在）
保健厚生部	心身の健康課題に適切に対応する能力の向上	①健康観察の充実 ②教育相談・特別支援教育体制の充実 ③環境美化活動の充実	①毎日のST時における各担任の健康観察を徹底させるとともに、ST後の連絡・養護教諭との連携を強化する。 ②スクールカウンセラーによる研修等を実施し、教育相談、特別支援に対する意識啓発と資質向上に努める（目標年間3回実施）。また、当該生徒に関わる各教員との連携を密にし、情報共有に努める。 ③健康で安全な学校生活を送れるようにするため、環境美化に対する意識を向上させる。また、ボランティア清掃活動の実践（目標年間3回実施）やゴミの減量に努めるようにする。	①各担任による朝ST後における健康観察を徹底したことにより、教員・生徒相互の意識向上を感じることができた。 ②スクールカウンセラーからの研修や、フィードバックの際の助言を通して、細やかな生徒対応を取ることができた。 ③授業後の清掃活動のみならず、各部活動や委員会での定期清掃活動・ボランティア清掃活動を実施したことで、校内美化に貢献することができた。
図書情報部	積極的な情報発信と、図書室の活性化	①学校新聞を通して近隣の中学校に積極的にアピールするとともに、ホームページをより充実させ地域への情報発信を活性化する。 ②図書室の利用者が増加するように、行事・掲示・宣伝の工夫に努めるとともに、利用しやすいように館内整備に努める。	①学校新聞・ホームページをより充実した内容にするために情報収集を迅速に行うとともに、写真などの記録を各分掌・学年に依頼し学校新聞・ホームページをより魅力的なものにしていく。 ②魅力ある図書室となるように、行事・掲示・宣伝等に図書委員が中心となり、主体的に携わって活動できる環境を整えていく。	①各分掌・学年に依頼した写真などの記録を有効に活用し、円滑に学校新聞・ホームページを作成・更新することができた。 ②図書室の活性化を目指し、机の配置を変更した。また、図書委員からは、「利用しやすいように。」という自己評価を得た。貸出冊数は、一月末現在で、昨年比で一割以上増加している。
生徒会部	学校行事の安全かつ迅速な運営にむけた学校組織との連携強化	①学校祭のスムーズかつ安全な運営 ②学校祭実行委員の育成および執行部との連携強化 ③学校施設・設備の点検、整備	①・学校祭オープニングの内容精選と暑さ対策を徹底する。 ・体育大会種目変更のルールの検討を行う。 ・体育大会の迅速な運営のために学校組織、部活動顧問との連携強化を図る。 ②学校祭実行委員の早期募集、適切な人選を行い、スムーズな学校祭運営につなげる。 ③②によって生徒の7割以上が楽しめる学校祭にする。 ④学校行事に使用する設備や部室の点検、整備を徹底する。	①・体育大会の種目変更のルールを大幅に変えたことで当日欠席も減り、スムーズな大会運営ができた。また生徒アンケートでも7割以上が楽しんでくれたことがうかがえる。 ・来年度は外部施設利用のため、学校祭の大幅な変更が必要となる。今年度以上に学校組織全体での取り組みを期待したい。 ②前期実行委員から後期執行部に3名が加わった。これによって後期の行事運営がスムーズに行えた。 ③部室点検は概ね良好。ただ設備の老朽化もあるので、整備の徹底を継続していきたい。
生活文化科	生活文化科のさらなる活性化	①外部講師の招聘や各種資格取得試験への取組みなど、生活文化科ならではの授業の充実を目指す。被食検定では、合格率98%以上を目標とする。 ②生活文化科や学校家庭クラブ活動の周知を図る。	①成年年齢引き下げにともない、自立した消費者育成指導の充実を図るため、消費生活分野において、外部講師を活用する。 ②検定に関わりのある授業においては、合格率向上に努める。 ③学校行事や地域イベントに積極的に参加し、ホームページを活用して地域に発信する。	①3年生生活文化科、専門教科「消費生活」において、外部講師を活用し、消費者育成指導の充実を図った。 ①被食検定の合格率は98.2%で、目標を達成できた。今後、さらに合格率が上がるよう指導にあたりたい。 ②ホームページを大規模更新し、家庭や地域への情報の発信に努めるとともに、更なる地域連携を図った。
第一学年	①高1クライシスの未然防止 ②学力の向上と学習力の開化 ③保護者との信頼関係の構築	①挨拶、声かけ、観察など日頃のコミュニケーションによる生徒理解を最重要のタスクとし、年間30日以上欠席する生徒が全体の1%未満になるよう努める。 ②予習・復習の充実を促し、授業の中でわかる喜びや自己の伸びを実感できる生徒が全体の80%以上になるよう努める。 ③保護者との連携を密にし、こまめな情報交換と正しい情報共有を心がけ、学校の指導や取り組みに対する満足度が60%以上になるよう努める。	①生徒の心身の健康状態を踏まえ、個に適切な対応を心がける。また、教科担任、部顧問等から情報を得て、教育相談係と連携を図り、生徒の居場所作りに取り組む。 ②授業を中心とした学習計画を立てさせる。また、学力分析を定期的に行うことで方策の具体化を図り、大府高校で「確かな学力」を身につけるための下地を作る。 ③早めの報告・連絡・相談を心がける。また、学校と家庭が車の両輪となり生徒を育てる体制を整え、お互いの信頼関係を深めていく。	①学年団、養護教諭のサポートもあり、多くの生徒が高校1年生を無事に過ごすことができた。 ②授業に不満をもつ生徒へのフォローができなかった。依然として授業規律に問題が残っている。課題への取り組み姿勢も十分とは言えない状況である。 ③全体的に保護者との関係は良好である。今後も不信や不満を抱かれることがないように誠実な対応を心掛けていきたい。
第二学年	具体的な進路目標の設定と学習習慣の定着	①進路意識高揚のためにL.Tや総合的な学習の時間を活用して、調べ学習や外部講師による講演会の開催など、類型に合わせた働きかけをし、具体的な進路目標設定に繋げる。 ②学習記録、定期考査をもとに日頃の学習習慣の振り返りをさせるとともに、校外模試等を活用して自分の学力状況の分析を常にさせ、自分に必要な学習を計画的に進めさせるようにする。	①さまざまな機会を捉えて、自分の適性に合った進路選択を考えられるように促すとともに、進路に対しての視野を広げ、具体的な目標を設定し、学習に対して向上心をもって取り組めるよう指導する。 ②日頃の学習習慣と学力状況、進路実現に必要な力を関連して考えられるように、自己分析を促す。日頃の生徒への指導や個人面談の場面で学習意欲が高まるような声かけをしていく。	①様々な角度から進路意識高揚の機会を示したが、すべての生徒が具体的な進路目標の設定に繋げるには至らなかった。さらなる動機づけが必要になる。 ②振り返りにより、定期考査に向かう計画的な学習の取り組みが見られるようになってきた。
第三学年	可能性を広げるための教科指導と生徒の適性に合った進路指導の実現	①生徒の学力を向上させるために、各教科の教員が生徒の意欲・関心を引き出す工夫をし、授業時間内の学習効果を最大限に高められるよう努める。 ②面接を通して進路希望や適性を定期的に把握し、的確な助言ができるよう努める。また、年度末にアンケートを実施し、「自分の進路決定に満足している」と答える生徒が半数以上となることを目指す。 ③生徒が高い目標を設定して自発的に学習に取り組む姿勢を教員が適切に評価する。 ④上記の方策を実現するために、教員間で密に連携を取り、様々な情報の共有および有効活用をする。	①早朝や昼休み、業後の時間に面接時間を確保し、生徒の細やかな進路希望の変化や学習・生活習慣の様子を観察する。得られた情報は会議等で適宜共有し、多方面から生徒を支えられる枠組みを作る。 ②面接テストを軸として生徒の学習成果を把握する。また、模試の結果を最大限に活用し、生徒の進路実現に向けて適切な指導ができるよう努める。 ③総合的な学習の時間や進路L.Tを利用し、生徒の能動的な学習意識の高揚を目指す。 ④進路に関する声かけを様々な立場の教員が共通認識をもって行う。さらに、土曜学習会や補習の開催を通して、授業外においても生徒が集中して学習に取り組むことができる環境を整える。	①生徒面談を通して生活面や進路希望などの情報を得ることで、きめ細やかな指導ができた。また、学年会などで必要な情報は共有し連携をとることができた。 ②各教科が連携して生徒に力をつける指導を継続的に行うことができた。補習や夏季セミナー、冬季演習においても多くの生徒を奮って効率的に執り行うことができた。 ③総合的な学習の時間を進路意識の涵養と基礎学力養成に充てることのできた。生徒の自発的な学習を促す上で重要な役割を担った。継続的な英語テストを実施することで、全クラスにおいて飛躍的な成績向上がみられ、学年平均は第一回32.6から第七回42.8（50点満点）まで向上した。 ④一般入試に向けて、学年を担当する全教員での応援する雰囲気、がんばろうとしている生徒たちに伝わり、日々の学習に緊張感を持って取り組むことができた。
学校いじめ防止基本方針に基づく取組み	①いじめの早期発見や未然に防ぐために、学校生活アンケートを年3回行う。 ②いじめ不登校対策委員会を定期的に行ない、情報の共有化を図り、学校全体でいじめに対して取り組んでいく。	①学校生活アンケートを元に生徒と面談を行ないより詳しい情報を得て、会議等で適宜共有し、問題解決に向けて学校全体で取り組めるようにしていく。 ②いじめ不登校対策委員会が得られた情報を全学年に会議等で共有し、生徒に対してきめ細かな対応を行える環境を整える。	①職員間のコミュニケーションを充実させ、協力体制を整える。仕事に偏りがなければ全職員で意識し、確認を図る。 ②仕事内容の精選を意識し、効率化を図る。 ③各々の働き方について意識する。	①学校生活アンケートにより得た生徒情報を面談等で解決し、会議等で共有することができた。 ②いじめ不登校対策委員会が得られた情報を全教員で円滑に共有することができた。
勤務時間の適正な管理及び長時間労働による健康障害防止の実施状況	①各分掌主任は、仕事をバランスよく振り分ける。 ②各学年主任は、担任・副担任への仕事をバランスよく振り分ける。 ③部活動指導において、それぞれの顧問で指導日をバランスよく振り分ける。 ④定時退校日の設定回数を増やす。	①職員間のコミュニケーションを充実させ、協力体制を整える。仕事に偏りがなければ全職員で意識し、確認を図る。 ②仕事内容の精選を意識し、効率化を図る。 ③各々の働き方について意識する。	①各分掌主任・学年主任は、それぞれよく考え、特定の人に仕事に偏らないよう仕事を割り振っていただいている。ただし、まだ主任に大きな負担がかかっているのも事実であり、その点を今後の課題として次年度以降に継続して意識していきたい。 ②職員室の施設時間を、通常は午後8時、長期休業中は午後6時30分、考査中は午後7時に改めた。各先生方も施設時間を意識できるようになり、時間外労働が80時間を超える教員は、2018年度の4月から翌年1月までで19名だったが、2019年度は11名に減った。ただし教職員のメンタルヘルスは日本全体の平均より、少しストレスを抱えている教員数が多い結果となり、来年度の課題である。	①各分掌主任・学年主任は、それぞれよく考え、特定の人に仕事に偏らないよう仕事を割り振っていただいている。ただし、まだ主任に大きな負担がかかっているのも事実であり、その点を今後の課題として次年度以降に継続して意識していきたい。 ②職員室の施設時間を、通常は午後8時、長期休業中は午後6時30分、考査中は午後7時に改めた。各先生方も施設時間を意識できるようになり、時間外労働が80時間を超える教員は、2018年度の4月から翌年1月までで19名だったが、2019年度は11名に減った。ただし教職員のメンタルヘルスは日本全体の平均より、少しストレスを抱えている教員数が多い結果となり、来年度の課題である。
学校関係者評価を実施する主な評価項目	①文武両道の実現 ②心豊かな生活と規範意識の更なる向上 ③防犯・防災を含めた安心・安全の確保 ④開かれた学校づくりの推進 ⑤新たな働き方への取組みの実践	①部活動は「量から質へ」、「指示から支援へ」、「一律の形態から多様な形態へ」少しずつ変化している。学習では、今年度「県立高等学校教育課程研究指定校」になり、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改革が進んでいる。高大接続、キャリア教育の充実も行われている。 ②全生徒対象にSNSに関わる身近な事案を紹介しながら人権講話を行い、人としての在り方・生き方について考えさせる機会を与えた。そして、海外交流始め、近隣の特別支援学校との交流を通して、人間関係構築力の育成に学校を挙げて取り組んで来た。また、SC（スクールカウンセラー）を講師として教員向け講座を実施し、生徒対応のスキルアップを図った。 ③大規模な災害が起こった時の対応をスムーズにできるようにするために、大府市の防災担当からの助言のもと、進捗した。また、来年度はさらに工夫をして実施を計画している。 ④PTA活動においては「研修旅行」や「学校祭でのバザー」、「ハーバリューム講習会」などを企画し、学校に来ていただく機会を積極的に設けた。また学校紹介のリーフレットを4回作成し、PTA・中学校・同窓会等に配布したり、地域貢献活動に参加したりして、学校の活動を広げた。 ⑤昨年度に引き続き、施設時間を少し変更した。昨年よりも教員一人ひとりが働き方改革を意識して、短時間で効果的な仕事をする努力をしてくれている。	①部活動は「量から質へ」、「指示から支援へ」、「一律の形態から多様な形態へ」少しずつ変化している。学習では、今年度「県立高等学校教育課程研究指定校」になり、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改革が進んでいる。高大接続、キャリア教育の充実も行われている。 ②全生徒対象にSNSに関わる身近な事案を紹介しながら人権講話を行い、人としての在り方・生き方について考えさせる機会を与えた。そして、海外交流始め、近隣の特別支援学校との交流を通して、人間関係構築力の育成に学校を挙げて取り組んで来た。また、SC（スクールカウンセラー）を講師として教員向け講座を実施し、生徒対応のスキルアップを図った。 ③大規模な災害が起こった時の対応をスムーズにできるようにするために、大府市の防災担当からの助言のもと、進捗した。また、来年度はさらに工夫をして実施を計画している。 ④PTA活動においては「研修旅行」や「学校祭でのバザー」、「ハーバリューム講習会」などを企画し、学校に来ていただく機会を積極的に設けた。また学校紹介のリーフレットを4回作成し、PTA・中学校・同窓会等に配布したり、地域貢献活動に参加したりして、学校の活動を広げた。 ⑤昨年度に引き続き、施設時間を少し変更した。昨年よりも教員一人ひとりが働き方改革を意識して、短時間で効果的な仕事をする努力をしてくれている。	①部活動は「量から質へ」、「指示から支援へ」、「一律の形態から多様な形態へ」少しずつ変化している。学習では、今年度「県立高等学校教育課程研究指定校」になり、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改革が進んでいる。高大接続、キャリア教育の充実も行われている。 ②全生徒対象にSNSに関わる身近な事案を紹介しながら人権講話を行い、人としての在り方・生き方について考えさせる機会を与えた。そして、海外交流始め、近隣の特別支援学校との交流を通して、人間関係構築力の育成に学校を挙げて取り組んで来た。また、SC（スクールカウンセラー）を講師として教員向け講座を実施し、生徒対応のスキルアップを図った。 ③大規模な災害が起こった時の対応をスムーズにできるようにするために、大府市の防災担当からの助言のもと、進捗した。また、来年度はさらに工夫をして実施を計画している。 ④PTA活動においては「研修旅行」や「学校祭でのバザー」、「ハーバリューム講習会」などを企画し、学校に来ていただく機会を積極的に設けた。また学校紹介のリーフレットを4回作成し、PTA・中学校・同窓会等に配布したり、地域貢献活動に参加したりして、学校の活動を広げた。 ⑤昨年度に引き続き、施設時間を少し変更した。昨年よりも教員一人ひとりが働き方改革を意識して、短時間で効果的な仕事をする努力をしてくれている。